【必ず左上をホチキス留めすること】

【赤字部分など，不要な部分は提出前に削除すること。（2023/4/18版）】

ナントカ実験

姓姓 名名

（心理学基礎実験　X班）

実験日　20xx年xx月xx日

提出日　20xx年xx月xx日

# 目的【←スタイル「見出し1」】

　【別に○○○を埋めろという意味ではないです。このテンプレをあまり流用せず，自分の言葉で書いてください】聴覚マスキングとは，○○○○○○○○○○○○現象である（○○，19xx）。【まずテーマとなっている現象・概念を説明します】このとき，○○○○のことをマスカー（masker），○○○○のことをマスキー（maskee）と呼ぶ。【キーワードは必ず説明・定義しましょう】たとえば，○○○○○○○ときに○○○○○○○ことがあるが，これは聴覚マスキングの例である。【具体例を挙げると格段にわかりやすくなります】聴覚マスキングが起こる場合には，○○○○○○○○○ということであり，○○○○○○○○○○○○と考えられることから，多くの研究がなされてきた。

　聴覚マスキングは○○○○○○○○という性質を示すことが知られている（○○，20xx）。これは○○○○○○を反映していると解釈されている。【テーマとなっている現象の中でも特にこの実験で着目している側面を説明します】本研究では，特に○○○○が○○○○を抑制する効果に着目し，○○○○○を用いた実験によって○○○○○を確かめることを目的とする。【実験の目的を明言しましょう。実験実習では，たいてい有名な現象の追試・再現が目的なので，「○○効果の追試を目的とする。」等でかまいません。】

　そこで，○○○○○○○○をマスキーとして用いて，○○○○○を○○○○ように操作した。この聴覚刺激を参加者に提示して，○○○○を○○○○○○○○する課題を課し，その○○○○○が○○○○○によって変化するか（特に，○○○○の場合に○○○○よりも上昇するか）を検討した。【実験の概要，特に独立変数・従属変数・課題・刺激についておおまかに説明します。実験で直接検討する作業仮説も説明します。「方法」で細かい説明に突入する前に，読者に見取り図を与えてください】

　という感じで，ここは本文です。スタイル「標準」（Wordの「ホーム」→「スタイル」の中にあります）を適用して下さい。本文は必ず段落にすること。段落冒頭は１字分字下げします（全角スペースを１字入れればよいです）。段落と段落の間には空行を入れません。

　「目的」の見出しは「問題」「目的と問題」「序論」などでもかまいません。また，長くなる場合はいくつかの節に分けてもかまいません（スタイル「見出し2」を使ってください）。

　文献リストに挙げた文献は必ず本文中でAdams et al.（2022）によると，とか（Adams et al., 2022）のように言及します。文献の中の特定の箇所を指すときは，山田（2004, p. 195）の指摘のように，とか（山田，2004，p. 195）のように書きます。本の中の1章や，辞典類の1つの項目を引用するときは，その章や項目のページ範囲は文献リストの中で書き，本文中には書きません（文献リストの例を見て下さい）。

ページ番号は

挿入→ヘッダーとフッター→ページ番号

　統計・引用文献などの半角英数のところでは半角スペースを使うこと。スペース抜け（Adams et al.,2022,p.12）は絶対にダメです。

　用語はきちんと名付け，初出時に説明します。特に，要因名（条件名とは別），従属変数の名前をはっきり宣言しておいてください。

　特殊な文字（é, üなど）は「挿入」→「記号と特殊文字」から挿入できます。

# 方法

## 参加者【←スタイル「見出し2」】

　参加者は大学生○○名であった。【「～～は○○名。」のような体言止めは避けること】年齢は平均xx.x（*SD* = xx.x）で，全員が日常生活に支障のない聴力を有していた。

　仮に「参加者」「装置」「刺激」「手続き」の4つの見出しをつけていますが，実験内容に応じて適当に変えてください。複雑な実験では「実験計画」とか「分析」という見出しを加えることもあります。「装置」「刺激」のかわりに「器具」「材料」とすることもあります。

## 装置

　「装置」は，使用した機器，ソフトウェアなどの説明です。

「装置」「刺激」「手続き」では，刺激の作り方・操作，手続きを単に述べるだけでなく，なぜそのような作り方・操作・手続きをするのか（操作の目的）を説明するようにしましょう。「視距離を一定に保つために，あご台を使用した。」というように。

## 刺激

　「刺激」は，料理のレシピで言えば材料の説明です。提示の順序とか，各条件を何試行行ったかなど，料理の手順にあたる内容は，「手続き」に書きます。刺激によって独立変数を操作する場合は，独立変数をどう操作したのか明確に書きましょう。刺激には名前をつけ，一貫してその名前を使うこと（「注視点」「標的刺激」「一致手がかり」のように）。単に「刺激」ではあいまいです。刺激を言葉で説明するのが難しい場合は，図を使いましょう。

## 手続き

　実験は練習ブロック（12試行），学習ブロック（120試行），テストブロック（48試行）の順で行われた。学習ブロックでは，○○群の参加者は○○課題を，××群の参加者は××課題を行った。それ以外の手続きは両群で同一だった。所要時間はおよそ20分であった。

表1

文字刺激（実験1）と図形刺激（実験2）によるフランカー効果

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 　 | 実験1 | 　 | 実験2 |
| フランカー | 誤答率 | RT (ms) | 　 | 誤答率 | RT (ms) |
| 一致 | .012 | 345 |  | .010 | 321 |
| 不一致 | .233 | 456 |  | .123 | 432 |
| なし | .002 | 234 | 　 | ― | ― |
| 平均 | .082 | 345 | 　 | .067 | 377 |

【この表はテキストボックスの中にはりつけしています】

【タテ線は一切入れない。ヨコ線は一部のみ。全ての行にヨコ線をつけることはしない】

【数値は四捨五入して適当なケタ数にそろえること】

　練習ブロックでは，参加者はまず画面に表示される教示を読み，スペースキーを押して練習試行を開始した。各試行では，画面中央に注視点が1秒間表示され，続いて……

　といったように，まずおおまかな実験の流れ・実験計画を説明し，その後に細かいところを順に説明します。被験者が行うように言われた課題，1試行の流れなどを説明します。教示などの手続きにより独立変数を操作する場合は，ていねいにその手続きを説明します。

　ブロックの実施順序，刺激の提示時間・タイミングなどは，できるだけ時系列にそって説明しましょう。時間軸が行ったり来たりすると非常にわかりにくいです。また，「ランダムに」という言葉は何をランダムにしたのか（条件？順序？位置？回数？）をはっきりさせて使うこと。「条件ごとの回数はランダムではなく事前に決められていて，試行の順序はランダムにした」というようなケースが多いです。

# 結果

　誤答率は平均で○○○であり，非常に低く，参加者は教示どおりに課題を遂行できていたと考えられる。誤答および○○○○だった試行は，課題を遂行できていなかったと考えられるので，以下の反応時間の分析からは除外した（全試行の○○%）。残りのデータについて，条件ごとに平均反応時間を算出した（図○）。【検定に入る前に，まず素直に平均値等の結果を示し，全体的な傾向を簡単に述べます。データの集計・分析方法も説明します。2条件しかないなど単純なデータなら，図表にせず文中に平均値を書いてもよいです。】

図1

Müller-Lyer錯視図形の主線の長さの主観的等価点

A, 2つの調整方向条件（上昇・下降）を合わせた結果。誤差線は標準偏差を表す。B, 調整方向条件ごとの結果。PSE, point of subjective equality.【図のタイトルは，近年，図の上につけるようになりました。図の下にタイトルがついている論文もまだ多いですが，上につけて下さい】



【この図はテキストボックスの中に挿入しています】

【図表は必ずページの上端に固定するか，１ページ全体を占有するようにします】

【図表を入れたら，必ず本文中で「図1」「表1」のように言及すること】

【グラフはエクセルのデフォルトではなく，書式を整えること。色は黒と白のみとし，グレーも極力避ける。縦軸・横軸には必ずラベルをつける（単位も忘れずに）】

　【従属変数】が【独立変数】によって○○○○○○かを，対応のある*t*検定によって検討した。その結果，○○○○○○○○○○○○○○○（*t*(9) = 2.57, *p* = .030）。【続いて，具体的な分析の内容を書きます。何を確かめるための分析なのか，という目的も説明しましょう。】図1Aからもわかるように，○○○○となる傾向が見られた。ただし，この傾向は○○条件では弱かった（図1B）。【図表をうまく参照しながら説明すると読者に親切です】

　○○○○の効果についても○○○○によって検討した。その結果，○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。【他にも分析できることがあれば，分析します】

　という感じで，ここは結果の本文です。「見出し2」を使って複数の節に分けてもかまいません。図表は必ず「図1」とか「表2」のように番号で指定します。「上図のように」「下の表」はダメ。「グラフ1」もダメです。グラフは図。

　統計的検定結果は文末につけるか，カッコ内に書くのが一般的（*F*(1, 147) = 1.03, *p* = .312）。検定結果はあくまでも文で説明し，統計はあとから挿入するイメージで。複数の結果を列挙したい場合はセミコロンで区切ります（*F*(1, 147) = 1.03, *p* = .312; *F*(1, 147) = 3.42, *p* = .066）。コンマの後や等号の前後など，半角スペースをきちんと入れること！（*F*(1,147)=1.03,*p*=.312）のようなスペース抜けは絶対にダメです。*F*, *t*, *p*, *r*などの統計量の記号はイタリック体にします。カッコや数値，ギリシャ文字はイタリック体にしません。カイ2乗検定などで使うχ2のχは「かい」と打って変換するか，「挿入」→「記号と特殊文字」から入力します。エックス*x*で代用するのは絶対にダメです。*t*や*F*の値は適当な桁数（小数点以下2桁程度）に四捨五入すること。両側検定の場合，*t*値のマイナスは省略します。

　*p*値は有意水準ではなく，実際にデータから計算された*p*値を書きます（*p* = .023のように）。小数点以下3桁になるよう四捨五入します。ただし，*p*値が0.001より小さい場合は*p* < .001と書きます。Excelの両側検定と片側検定の*p*値を間違えないこと。両側*p*値の方が値は大きいです。片側検定はめったに使いません。

　統計ソフトを使っていないので実際の*p*値がわからない場合は，不等号を使って*p* < .05とか*p* < .01（有意な場合），*p* > .05（有意でない場合）のように書きます。不等号の向きに注意。検定の有意水準を明記するときは，「有意水準5%で検定した」のように言葉で書くか，（α = .05）のようにαで表します。有意水準を*p* = .05と書いてはいけません。

*t*値や*F*値，χ2値も，臨界値・境界値ではなくデータから実際に計算された値を書きます。

　細かい計算過程は不要。分散分析表もつけなくてOK（つける場合は「付録」に）。

# 考察

　○○○は，○○○では上昇したが，○○○場合には変化しなかった。【まず結果の要点・概要を言葉で説明する】 この結果から，従来知られている○○効果（○○，xxxx）が再現されたと言えよう。

　一方で，○○○○の場合に○○○○○となっていたことは，先行研究の知見と一致しない。その原因はいくつか考えられる。まず，○○○○○○○と考えられる。しかし，○○○○○であるから，この可能性はあまり高くないだろう。一方で，○○○○○○が影響していた可能性も指摘できる。実際，○○○○ことが知られており（○○，xxxx），実験後に○○○○○と報告した参加者も3名いた。もし○○○○だとすれば，同じことが起こっていた可能性はあるだろう。この点を解明するには，○○○○○○した実験を行う必要がある。

　また，○○○○が○○○○となっていたことは，本研究の仮説や先行研究からは予想されない結果であった。なぜこのような傾向が現れたのかははっきりしないが，刺激の統制が不完全で，○○○○○○○○○が交絡変数として関与している可能性が考えられる。○○○○○○○○○という面からも検討する必要があるだろう。この点については，○○○○○○○○○○○○○○○○などの方法によって詳細に検討する必要があるだろう。

　という感じで，ここは考察です。がんばって考察して下さい。なぜ実験がダメだったかだけを書くのではなく，少しでも前向きな議論をしましょう。「……についてよく理解することができた。」とか「より正確な実験をしていきたいと思う。」のような感想文は書かないこと。「見出し2」を使って複数の節に分けてもかまいません。

### 引用文献【←スタイル「文献と付録の見出し」】

#### 【文献は著者名のアルファベット順。各文献は，2行目以降を字下げ（インデント）します。Wordなら「表示」→「ル―ラー」にチェックを入れ，ウィンドウの上部にルーラー（定規みたいなもの）を出します。ルーラ上の小さい△を動かして，2行目以降を字下げします。】

#### Adams, B. C., De Haven, E., & Fukui, G. (2022). Title of paper. *Title of Journal*, *12*, 345–367. https://doi.org/xxx.xx.xxxx-xx【←スタイル「文献リスト」。論文タイトルは先頭語の先頭1字のみ大文字（固有名詞は先頭1文字大文字）。論文現物の紙面で大文字・小文字がどうなっているかは無視します。雑誌名はof, and, inなどを除く主要語すべて先頭1文字大文字。雑誌名は省略せずに書きます。×*J Pers Soc Psychol* → ○*Journal of Personality and Social Psychology*DOIによるアドレスがあれば末尾につけます。必ずDOIによるアドレス（https://doi.org/ で始まるもの）を使うこと】

Glasman-Deal, H. (2010). *Science research writing for non-native speakers of English*. Imperial College Press.

#### （グラスマン=ディール，H． 甲斐 基文・小島 正樹（訳）（2017）．理系研究者のためのアカデミックライティング　東京図書）

#### 【翻訳書の場合。本文中ではGlasman-Deal (2010 甲斐・小島訳2017) として引用します。なおこの例では「Glasman-Deal」で1つの姓（family name）。最後のImperial College Pressは原著の出版者。】

#### 論文の著者1・論文の著者2（20xx）．日本語の論文タイトル　雑誌のタイトル，*xx*，xx–xx. https://doi.org/xxx.xx.xxxx-xx

#### 本の著者1・本の著者2（20xx）．日本語の本のタイトル　出版社

鈴木 光太郎（1999）．マッカロー効果　中島 義明・安藤 清志・子安 増生・坂野 雄二・繁桝 算男・立花 政夫・箱田 裕司（編） 心理学辞典　（p. 811） 有斐閣 【辞典の項目を引用した例。項目「マッカロー効果」の著者が鈴木。辞典全体の編者が中島ら。本文中では鈴木（1999）として引用します。編者や著者が複数の場合は，本に書かれている通りの順に書きます。】

#### 松井 豊（2010）．改訂新版　心理学論文の書き方　卒業論文や修士論文を書くために　河出書房新社【「新版」「改訂版」「第2版」など，版が違ったら別の文献として扱います。刷の違いは無視。この場合は「改訂新版」初刷の2010年を出版年とします。】

#### 山田 一成（2004）．質問紙調査の実施方法　高野 陽太郎・岡 隆（編） 心理学研究法　心を見つめる科学のまなざし （pp. 187–202【←章全体のページ範囲。複数ページなのでp.ではなくpp.】） 有斐閣

### 付録

　付録はなくてもいいですが，全刺激の一覧，細かい分析の結果，非常に多いデータなどをつけておくとよいです。付録をつけたら，（○○○の一覧は付録を参照のこと）のように，本文中で必ず付録に言及しましょう